

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

外部評価の結果

<p>講評</p> <p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>みんなで作ったという七夕飾りのあるリビングルームに、殆どどの利用者たちが集まって、落ち着いた笑顔で迎えてくれた。居室で休んだり、好きな趣味をしている人もいる。利用者の自由を尊重し、一人ひとりが好きなことに取り組めるよう、それぞれに合った支援をしている。ソファに座って指揮棒代わりに指を振りながら「や～またのな～かの一本足のかかし…」と笑顔で歌いだす利用者のそばでは、それに合わせて拍子をとったり歌ったりする利用者や職員。職員はそれとなく身体介護をしながら、共に生活する仲間としてしっかり話しかけ、利用者との信頼関係を作っているようだ。食後や3時にはゆっくりとした団楽の時間があり、職員も利用者と一緒に楽しく話しをし、利用者の気持ちを引き出そうとしている。</p> <p>敷地内の老健施設やデイサービス施設との連携があること、事業主がかかりつけ医であり、緊急時には援助を受けることもできること等多くの点で心強い。これらの施設の娯楽やリハビリに参加したり、夏祭りを共催して地域と盛んに交流もしている。</p> <p>ホーム内で閉鎖的にならないよう、日常の買物や外出、行事の実施、ボランティアの導入等が心がけ、市の介護相談員の来訪やボランティアのちぎり絵教室等を利用者は楽しみにしている。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点</p> <p>次のような提案をした</p> <p>次の提案をしたい</p> <p>ケアプランに関わる会議の記録、ケアプランの実施状況の記録を残し、計画の変更点を明示し、全職員が確認して共有出来るようにしてもらいたい。また、情報を確実に共有するため、管理日誌の記入項目を見直したり、管理者からの伝達事項や問題に対する職員の意見等も記入して申し送りノートをさらに活用し、情報伝達の証拠を残していくと更に良くなると思う。娯楽や団楽での会話では楽しそうに見えても、人前では自分の気持ちを出せない利用者もいるので、心の充実感を持たせてあげられるよう、時には個人的に寄り添って話しを聞いてあげるように努めて欲しい。</p>

事業所名 グループホーム ひまわりの家

日付 平成18年9月7日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験18年

評価調査員 在宅介護経験13年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>少人数を生かし、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援、利用者や職員と一緒に楽しめる支援、閉鎖的にならないよう外出や行事・外部との交流等を取り入れた支援を心掛けている。</p> <p>職員一人ひとりは意識も高く利用者との良い関係を作れているようだが、ホーム全体として目指す分かりやすい目標をはっきりと掲げて、少しずつでもケアのレベルアップに取り組んでいってはどうでしょうか。このような取り組みを見れば、家族にもホームの意気込みを感じてもらえるのではないのでしょうか。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>建物内は楽しく安心して生活出来るように、浴室の造りや各所に手摺をつけるなど安全に配慮している。利用者の作品や写真を掲示したり、共同作品で室内を飾ったりして、話題性や達成感で楽しさを生み出そうとしている。また、利用者は屋外での活動を楽しめるように菜園を作り、収穫を楽しんでいる。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者一人ひとりの希望に応じたケアを心がけている。快適に過ごすための身体ケアを基本に、自由に好きな事をして過ごしてもらう支援をしている。居室に閉じこもらず、できるだけリビングルームで楽しく過ごせる様に、おやつや食後の団楽の時間を長くとり、職員もゆっくり話しかけている。また、娯楽やリハビリに法人内の施設へ出掛けたり、菜園での作業や散歩、買物や外食など建物外の活動もしている。</p> <p>職員一人ひとりの認知症ケアの意識も高く、声かけなどをはじめ職員が利用者にしてあげる支援は良くできている。今後は、してあげるケアだけでなく、利用者自らが頑張ったり、職員が逆に教えてもらったり手助けしてもらったりなど、精神面の充実できることを見つけてあげるケアが欲しい。そのためには、アセスメント、ケアの実施状況、計画見直し時の会議など職員間での意見交換をしっかりと、記録に残していくことが大切だと思う。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>このホームが法人内の一施設であるという点、また、周辺が田園地帯で民家が少なく、こと等のため、利用者や近所の人との自然な交流は難しいと思われる。そうした中で少しでも地域との交流を持つために、保育園との交流や地域行事への参加、実習生の受け入れなどを行っている。共同作業などを企画して、小学生や中学生に高齢者への理解を広めるなど、今後はホーム独自でできる社会貢献も考えて欲しい。</p> <p>家族には「たより」の発行等で連携を図ろうとしているが、行事の手伝いや「たより」への投稿等、ホームへの積極的な参加を求める事も、お互いの信頼を深めることが出来てよいのではないかとと思う。</p> <p>地域や家族の代表も交えて開かれる「ひまわりの家運営推進会議」の場で、ホームへの理解やホーム側の貢献について話し合ってもらいたい。また、職員間の意見交換の記録を残し、今後の向上への足がかりにして欲しい。</p>		